

理学療法学科

講義・演習、実習を通して、最新の知識・技術を提供しています

理学療法は幅広い分野での実践を社会から期待されています。こうした現状を踏まえ、さまざまな分野で、質の高い理学療法を提供できる専門職として社会に貢献できるように、専門知識と技術の基本を効率よく修得できるようにプログラムを提供しています。その結果、国家試験についても、毎年全国平均を大幅に上回る高い合格率を誇っています。



3つの特色

1

少人数だからできる 細やかな指導

充実した設備の実習室を備え、各分野の専門教員によって、一人ひとりが確かな技術を身につけられるよう指導します。

2

地域社会・国際社会に 貢献できる専門職の育成

人々の健康のためにさまざまな場所や立場で貢献できる「実践力」を鍛えます。

3

自己研鑽が出来る 人材の育成

総合臨床実習を通じ、自ら解決すべき課題を見つけ、取り組むための総合的知識技術を修得していきます。

●取得可能な資格・免許

- 学士（理学療法学）
- 理学療法士国家試験受験資格

理学療法士の免許を取得したのちには実践経験に基づいて、介護支援専門員（通称：ケアマネージャー）や、関連医学会の認定資格の受験資格を得ることができます。

●理学療法士の仕事

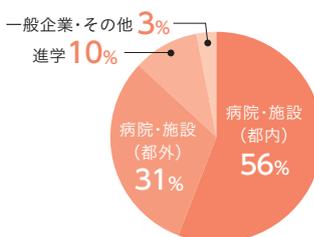
理学療法士は、病気やケガのために不自由になった「起きる」「立つ」「歩く」などの基本的な動作能力を回復するための治療やトレーニングをするのが仕事です。対象者が社会生活を送るための住宅環境を整えたり、訪問理学療法などを行ったりすることもあります。

●国家試験合格状況（2022年実施）

資格名	受験者	合格者	合格率	全国※
理学療法士	36名	35名	97.2%	87.4%

※既卒者を含む

●進路情報（2022年実績）



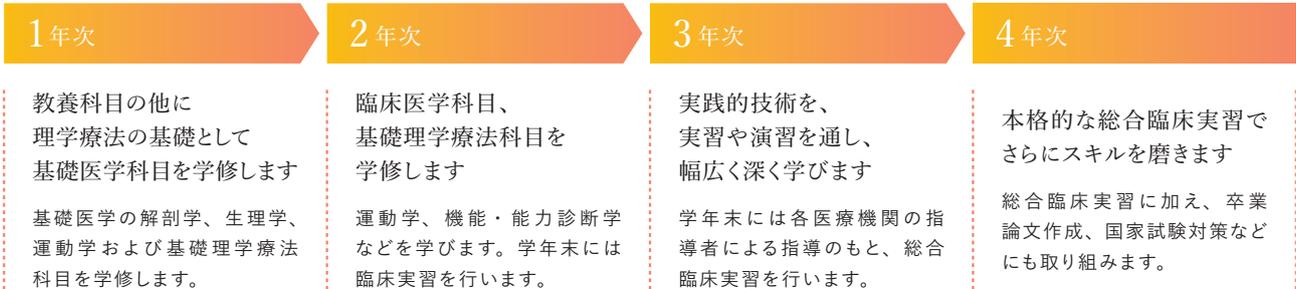
●主な進路先

日本赤十字社団医療センター、社会医療法人河北医療財団、医療法人社団新潮会 足立慶友リハビリテーション病院、医療法人社団苑田会 苑田会リハビリテーション病院、社会福祉法人東京都済生会中央病院、医療法人社団日本鋼管病院こうかんクリニック、学校法人慈恵大学、埼玉医科大学総合医療センター、東京都立大学大学院

CURRICULUM

カリキュラム

▶ 4年間の流れ



▶ 授業紹介

2年次

機能・能力診断学演習
古川 順光 教授

理学療法の検査方法について学びます

運動機能障害を調べる方法のひとつである徒手筋力検査法を解剖学・運動学を復習しながら実技を通して学びます。

2年次

日常生活活動学
池田 由美 教授

日常生活とは何か、生活の質とは何かについて学修します

日常生活動作について、その定義を理解し、運動学的視点と生活や活動の視点に立って、講義と実技を実施することで学んでいきます。

3年次

徒手理学療法学
来間 弘展 教授

徒手療法に関する基礎を学びます

理学療法の基礎となる徒手療法に重点を置き、徒手療法の系統別な考え方と各治療方法の治療手技・評価方法・適応等について学びます。

4年次

地域理学療法学
浅川 康吉 教授

地域理学療法学の理念、考え方を理解し、基本的知識を修得します

地域包括ケアシステムや地域で活躍する理学療法士像について主体的に考察するためアクティブラーニングを活用した授業を行います。



▶ 臨地実習

1年次から4年次にかけて、臨床実習を行います

実習前には、OSCEにより臨床実習が安全かつ効果的に行えることを確認しています。実習を通し、臨床実践能力を身につけます。

	前期						後期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次						臨床見学実習						
2年次											評価臨床実習	
3年次					小児理学療法学（保育園見学実習）						総合臨床実習Ⅰ	
4年次	総合臨床実習Ⅱ					地域理学療法学臨床実習						

* OSCE (Objective Structured Clinical Examination : 客観的臨床能力試験)

CURRICULUM

カリキュラム

▶ PickUp 授業



運動学実習 [3年次]

金子 文成 准教授 他7名

運動学に関する事象を規則機器を用いて解析することで身体運動の原理を深く理解します

運動学実習は、3年次前期に配置されている科目です。1年次に履修する「運動学I」、「運動学II」の実習科目になります。運動学I・IIで得られた人の運動に関する知識について、観察や計測機器を用いて分析することを通して、運動学に関する事象を確認します。①神経筋活動電位の伝播と筋張力変換、②骨格筋収縮と腱伸長、③歩行のメカニクス、④姿勢制御機構、⑤心肺運動負荷試験、などの実習を体験し、身体の中で起こっている生理学的な事象を外から観察し、身体運動の原理を学びます。

実習においては、テーマごとに実験計画と計測を行い、得られたデータを解析します。データの解析においては、運動学をはじめとして解剖学や生理学で学んだ基礎知識と連携させて考察し、各個人がレポートをまとめるという思考と表現の過程を体験します。



在学生の声



理学療法学科4年
二羽 香菜都さん
(2023年度現在)

ニーズに応じて適切なアプローチを取捨選択できる理学療法士が目標

実習で印象深かったのは、高齢者の運動機能の低下には、いくつもの要因が複雑に絡み合っているという現実。教科書だけではなく、症例報告や論文なども読み込んで視野を広げ、実践的な引き出しを増やす大切さを感じました。またスタッフ同士のチームワークから患者さんとの対話まで、臨床現場におけるコミュニケーションの重要性も実感。思い返せば、私が中学時代にケガをした際、前向きにリハビリに臨めるよう、精神的にも理学療法士の方に支えていただきました。この実体験と大学での学びを活かして、次は私が患者さんを支えていきたいです。

● 二羽さんの3年次の時間割

	月	火	水	木	金
1限			義肢装具学 実習		神経・筋系 理学療法学
2限					
3限	神経・筋系 理学療法学 実習	義肢装具学	運動学 実習		臨床運動学
4限				神経・筋系 理学療法学 実習	

運動学実習では、計測機器を使った実験の計画づくりから実行、分析、考察、レポート作成まで行います。例えば、外部から動的な刺激を与えた際、姿勢を保つためにどう反応し、どう重心を変化させているかといったデータを分析。実験結果に向き合い、「なぜ?」と探究することは楽しいですし、自分とは異なる仲間の意見に触れることで、視野も広がります。

▶ PickUp 授業

日常生活活動学 [2年次]

浅川 康吉 教授 他 2名

身体の不自由な人が生活していくための方法を、学びます

日常生活活動 (ADL: Activities of Daily Living) とは食事・排泄・更衣・入浴・整容・歩行などの身の回りの基本的な動作を表します。病気や怪我などにより、身体に障がいを負ってしまった方が通常の暮らしを行うことができるようにするための方法を学びます。障がいの程度により一人ひとりのできることやできないことが異なるため、どの程度であれば一人で行えるのか、身体機能を調べ、どのような支援や道具があったらできるようになるのかを考えます。それらを理解したうえで、どのような指導や支援方法があるのかを提供できるように、学びます。また、これらを総合的に学んでいくことで、住宅改造や装具、自助具などの福祉機器の選択へ展開できる知識を修得することを目指します。さらに、視覚に障害がある方の日常生活活動および日常生活関連動作能力に関する具体的な指導方法についても学びます。



杖を使用した階段の上り下りの指導



段差を乗り越えるための車いすの前輪上げの練習

▶ 卒業研究

希望する研究分野で、4年次までの講義や実習を通して得られた専門知識を活用して、教員の指導のもと、各々の研究テーマに関する学習・討論をしながら研究を進めていきます。

目的

sedentary behavior(座位行動): 「座位および臥位におけるエネルギー消費量が1.5メッツ以下のすべての覚醒行動」
 > 両もたれ座位・臥位では多裂筋の活動は低い
 > 座位行動の増加は、抗重力活動の減少と同様に、多裂筋の筋断面積に影響を与える可能性

若年成人における
座位行動時間と多裂筋の筋内脂肪の関連性
 を明らかにする

方法

対象者: 健康若年者28名 (男性14名, 女性14名)

- ① 多裂筋の筋内脂肪評価
 - 超音波法による筋断面積測定
 - 装置: Canon社製 AloPro 4000
 - 体位: 膝関節伸展位・屈曲位
 - 位置: 第4腰椎棘突起より2cm前方で骨柱と垂直に設置
 - 測定条件: 安静時・両脚に固定
 - 深度: ターン: デフォルト
- ② 筋断面積
- Image J (National Institute of Health, USA, version 1.52)
- 筋の経断内部を繋ぐ選択範囲内の平均ピクセル強度(総強度)を算出
- 0画~225画の範囲で評価

結果 筋輝度の関連因子

I. 座位行動時間	II. 歩数	III. 一日消費エネルギー
男性: $r=0.582^*$ ($p=0.029$) 女性: $r=0.716^{**}$ ($p=0.004$)	男性: $r=-0.157$ ($p=0.609$) 女性: $r=-0.751^{**}$ ($p=0.003$)	男性: $r=0.048$ ($p=0.869$) 女性: $r=-0.584^*$ ($p=0.028$)
男性・女性ともに 有意な正の相関	女性のみ 有意な負の相関	女性のみ 有意な負の相関

VOICE



背中の筋内脂肪量に着目し健康寿命を延ばす予防策の探究に挑戦

森 菜摘さん
13期生

卒業研究のテーマは、人の「座位行動時間」と、背中の「多裂筋」に含まれる筋肉脂肪量の関係です。健康寿命を延ばすための予防策に興味があり、座っている時間が長く、背中の筋力が弱い人ほど腰痛になりやすいとの仮説を立て、筋内脂肪率と腰痛の因果関係の解明に挑みました。筋内脂肪を計測する超音波検査(エコー)は何度も練習し、確かな検査技術が身についたほか、エコー画像の分析力も向上。参考文献として数10本の英語論文を読み込んだことで知識も深まりました。研究成果は2021年5月のリハビリテーション医学会で発表。自分の興味を大切に、オリジナルの研究を1から計画して進めた経験は大きな自信になりました。現在は大学病院でリハビリ業務に携わりながら、継続して論文執筆も進めており、あらためて学会で発表したいと考えています。